国土交通省が選ぶ本年度の手づくり郷土賞の地域活動部門に、南越前町の「アカタン砂防歴史遺産利活用」―田倉川と暮らしの会（伊藤喜右ェ門会長）―が選ばれ、昨年12月21日、国土交通省から認定証の伝達を受けました。

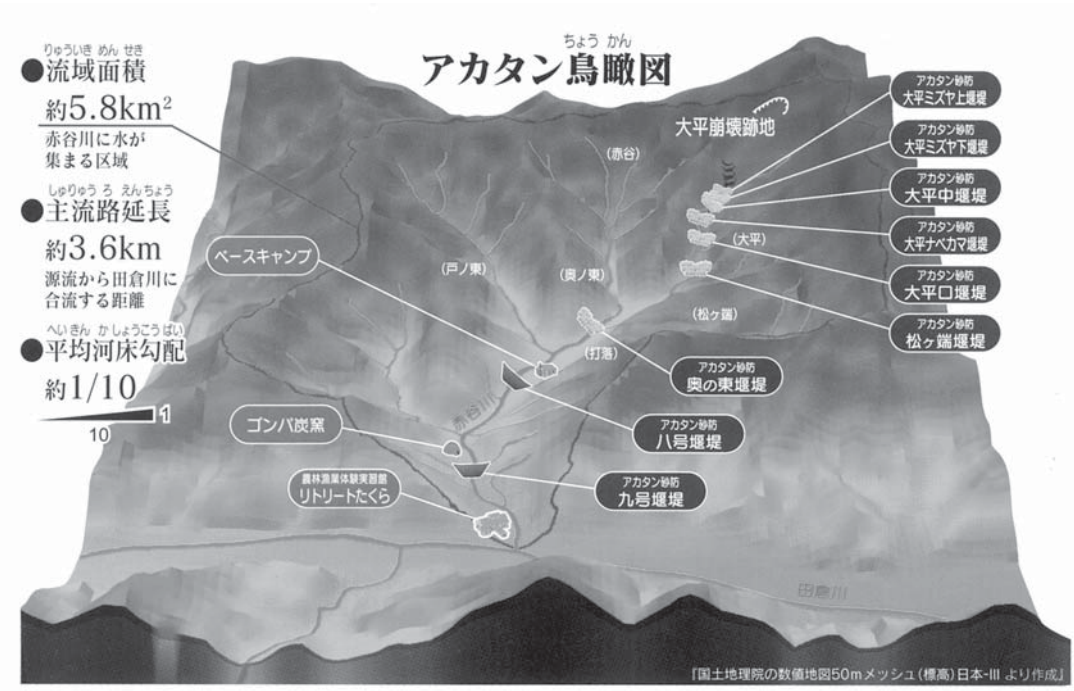
手づくり郷土賞（大臣表彰）受賞

アカタン砂防歴史遺産利活用

―田倉川と暮らしの会―

▶松ヶ端堰堤

田倉川へと注ぐ渓流・赤谷川（通称アカタン）には、明治期に造られた土の堰堤2基と石積みの堰堤7基、計9基からなる堰堤群があります。これが、アカタン砂防です。明治時代（約110年前）豪雨による大規模な土砂災害が発生。その後、災害防止のために県内砂防事業の先駆けとして築かれ、明治33（1900）年から7年がかりで行われました。流域住民が総出で、男性は木のソリで石を運び、女性は突き棒で土をたたき固めたと伝えられ、現在も、高さ3～10mの石組み堰堤がほぼ完全に当時の姿を保って9基並び、平成16（2004）年には国の登録有形文化財に指定されています。

この貴重な歴史遺産は「先人が残した遺跡を調べよう」と地元の住民グループ「田倉川と暮らしの会」が、古文書を調べ、現地調査を重ねて、2年がかりで堰堤群を発掘しました。会では、草刈りなどの維持活動や散策路、案内板の整備に取り組み、アカタン一帯をリトリートたくらを中心に屋根のない博物館「フィールド・ミュージアム」としてとらえ、遺跡見学会や土砂災害に関する防災教育、小中学生の自然学習、地域と都市住民の交流活動を展開しています。

今回の認定は、これらの積極的な活動が評価されたもので、国交省では選定された活動や場所を冊子にまとめるほか、地域づくり情報サイトで全国に紹介していくとしています。伊藤会長は「受賞してから、県外から多くの問合せがあります。南越前町にこのような遺産が残されていることをまず町民の皆さんに知ってもらい、町の大事な財産として引き継いでもらえれば嬉しい」と話され、受賞を喜んでいました。